

こども・若者からの御意見（パネルディスカッション(R7 11/30開催)）と回答

番号	御意見	回答案
1	千葉県での話ではないが、高校時代、先生の進学実績重視で自分の希望が否定され、周囲の期待に応えようと努力したが、上手くいかず望まない進路を選ぶことになった。先生からは結果や努力へのねぎらいもなく自己責任として片付けられ葛藤を抱えた経験がある。当時、自分の意見をきちんと聞いてくれる大人がいれば、状況は違ったのではないかと考える。その経験から、今はこども・若者が主体的に選択できる環境づくりを目指している。	こども・若者からの意見については、尊重することが重要であると考えています。 学校における進路指導は生徒の人生に大きな影響を持つことから、生徒・保護者の希望を丁寧に聞き取りながら適切に対応することが重要であり、各県立高校で進路指導に携わる教員を集めた協議会等の場においてもそのような考え方に基づいて指導しています。
2	中学校では、周囲と違うことが否定される雰囲気違和感を覚えた。意見を否定される経験は、発言が怖くなりふさぎ込む原因となると考えている。こどもが安心して意見や気持ちを表明でき、決定の場にも参加できる環境づくりが重要であると考え。 例えば、校則撤廃についてこどもと大人が半々で意見を出し合い、決定まで関われる仕組みがあれば良い。こどもも決定の場に参加し、自己決定できる環境が重要である。	こどもや若者が安心して意見を述べられる場を設け、意見の反映や理由のフィードバックを通じて、意見表明の好循環を生むことが重要であると考えています。 また、県では、校則の見直しには、児童生徒が参画し、自己決定の場を設けることを推奨しており、学校において、校則の見直し点検が確実に行われているか確認しています。 こども・若者の意見を聞きながら、安心して意見を述べるができる環境づくりを進めてまいります。
3	家庭や人間関係で孤立するこどもには、悩みを安心して話せる場が必要である。学校においても、精神科医や専門家による支援を学校で受けられる体制を整え、こどもの居場所や意見、気持ちを表明できる機会を増やすことが重要であると考え。こうした支援の導入を強く望む。	県では、心理の専門家であるスクールカウンセラーを県内の全公立小中学校及び県立高等学校等に配置するとともに、社会福祉士等の資格を持つスクールソーシャルワーカーを学校種を問わず全県で69名配置しています。引き続き、課題を抱える児童生徒や保護者を支援するため教育相談体制の充実に努めてまいります。

4	授業で誤った記述を指摘した際、厳しい規則のある中学校であったため不安を感じていたが、先生から「いい意見です」と受け入れられた経験が、安心して発言できる基礎となった。高校では孤立や悩みを抱える生徒が多く、物質的に豊かでも孤立は深刻な問題であると感じた。人は社会性のある生き物であり、孤立への対処として、安心してものを言える感覚をもてることが重要であると考え。	こども・若者が意見を表明することは自己決定や自己実現につながり、大人はその意見を年齢や発達に応じて尊重することが求められていると考えています。 県ではこども・若者から意見を聞きながら、こども・若者が意見を表明するためにはどのような場が必要なのか、検討してまいります。
5	小学校では先生が一人ひとりに寄り添い、のびのびと自分らしく過ごせる環境であったが、中学校では先生の接し方が厳しい環境であり、意見を言う余裕がなくなった。 高校生で人間関係に悩んだ際に、心を受け止めてくれる先生に出会い救われた経験から、こどもが安心して自分らしくいられる環境や、自由に意見を言える教育の重要性を強く感じている。 厳しいルールも必要だが、こどもが自由に意見を言え、間違えてもやり直せる環境があれば、個性を大切にしたい教育が広がり、誰にとっても心地よい場所になると考える。	学校段階や発達段階に応じた指導の在り方は異なるものの、いずれの段階においても、児童生徒一人ひとりが安心して学校生活を送り、自分らしさを大切にしながら学べる環境づくりが重要であると考えています。 また、学校においては一定の規律やルールが必要である一方、児童生徒が意見を表明できる機会を確保し、失敗や間違いを成長につなげられる指導・支援を行うことが求められます。 こうした取組を通じて、児童生徒が安心して自分らしく過ごし、自由に意見を述べるができる学校づくりを進めていくことは大切なことだと考えています。
6	両親は「みんなと同じでなければならない」という考えが強く、私は周囲と違うことで否定されることが多かった。小学校時代から学校にも家庭にも居場所がなく、今も心が落ち着かない日々である。私が望むのは、どんな意見でも受け入れてもらえる居場所である。たとえば、つらい気持ちを打ち明けたときに否定されるのではなく、「そう感じているんだね」と受け止め、一緒にこれからどう生きていくかを考えてくれるような場所があればよかったと感じている。	こども・若者にとって「居場所」があることは不可欠であり、誰もが安心して過ごせる多様な居場所をこどもの視点でつくることが重要であると考えています。県では一部の県立高校でNPOや地域ボランティアと連携し、教師や親以外の大人と飲食やゲームを楽しみながら自由に過ごせる「居場所カフェ」を開催し、生徒が率直な気持ちを話せる場を提供しています。 また、悩みを専門機関へつなぐ相談窓口「ライトハウスちば」や、電話・来所・SNS・オンラインで相談できるサポートセンターも設置しています。 今後も、安心して意見や気持ちを打ち明けられる居場所づくりに取り組んでまいります。

7	安心して意見が言える環境には、否定されない余白と主体性を尊重する仲間が不可欠であり、感情の段階から丁寧に受け止め、傾聴と応援を積み重ねることで挑戦が育つ。声にならない声を共有し、小さな挑戦を形にすることが、若者の主体性を守る方法であると考えている。	全てのこども・若者が、おとなや社会の支えを受けながら、仲間と支え合い、個人として尊重される権利の主体として、その可能性を広げていく社会づくりを進めていくことが重要であると考えています。 また、こども・若者が、自らのことについて意見を形成し、その意見を表明することや、社会に参画することが、社会への影響力を発揮することにつながります。 主体的な社会参画に向け、こども・若者から意見を聞きながら、安心して意見を述べるができる環境づくりを進めてまいります。
---	---	--